

経営者による緊急座談会 新常態で何が変わるか？

緊急座談会②

2つ目の座談会では、株式会社熱き情熱コーポレーション代表取締役の阿部賢悟氏、株式会社タイクーン代表取締役の浦川泰典氏、誉田進学塾代表の清水貫氏、株式会社創英コーポレーション代表取締役の豊川忠紀氏の4名に参加していただいた。1グループ目と同様、様々な示唆に富んだ意見が飛び交った。

150%となっています。その後も順調で8月〜10月は130%となりました。夏の間にも未履修の単元講座を作り、学校再開と同時に申込が来たカタチです。ただ、12月には例年並みに戻っています。

多くは春のマイナス分を夏以降で挽回

清水 千葉県内難関高校受験をターゲットにした集団指導を9教室、難関中学受験専門を2教室、東進衛星予備校も6教室運営しています。

豊川 個別指導の創英ゼミナールを神奈川県内に105教室、東進衛星予備校を24校舎運営しています。

清水 誉田進学塾では、生徒の総数は変わっていません。4〜6月は苦戦しましたが、夏の終盤で取り戻し、冬期は東進が伸びてプラスに転じています。夏期講習は多少変則になりましたが、総時間数は例年通りに落ち着きました。

皆さまが運営されている塾について、簡単にご紹介させていただきますか。

阿部 集団指導の情熱教室スピリッツ、個別の情熱個別パッションなど、複数のブランドを大分と宮崎で17教室展開しています。また東進衛星予備校も運営しています。

——コロナ禍の終息が見えませんが、8月以降は昨対比で「よかった塾」「悪かった塾」、様々あったようですが皆さんのところはいかがですか。

豊川 創英ゼミナールは減少したものの、そこまでの落ち込みではなかったです。昨対のマイナス分は12月以降で取り返せています。

浦川 東京、神奈川、埼玉で個別指導アトムを37教室展開しています。私共はこの業態のみの展開で、直営が32教室、FCが5教室となっています。

浦川 個別指導アトムは4月、5月の入会者が6割減となったものの、7月には

豊川 創英ゼミナールは減少したものの、そこまでの落ち込みではなかったです。昨対のマイナス分は12月以降で取り返せています。

浦川 個別指導アトムは4月、5月の入会者が6割減となったものの、7月には



タイクーンの浦川泰典氏



誉田進学塾の清水貫氏



創英コーポレーションの豊川忠紀氏



熱き情熱コーポレーションの阿部賢悟氏

阿部 東セミグループは春に落ち込みましたが、7月以降、特に11月、12月は夏のような感覚で好調でした。いくつか過去最高の売上を記録した教室もあったはずです。でも春の分は取り戻せておらず、生徒数で見るとまだ昨対は超えていません。

そこに入るといったように、通常授業の延長のようなカタチでできました。ですが、授業再開後は9割以上が対面を希望していて、今年に入って再び緊急事態宣言が出された時も、ほぼオンライン希望者はいませんでした。

宣言中と解除後の対応

——昨年、学校が休校していた時はどのように対応されていましたか。

浦川 試験前には来てもらうようにしましたが、基本的にはズームで対応していました。講師が自宅からオンラインで授業、教室長が

清水 東進以外の業態は、オンラインでおこないました。カリキュラムを組み替え、導入部分は先取りし、演習に関しては解除後に復習するための時間を取ることにしました。

また休校前から独自の映像配信システムの準備を開始し、4月、5月は配信のウェイトを多くしました。同じ単元を何人も先生で撮ることがないよう、単元ごとに担当を決め、分担し

て撮影。1箇所に集まれないので大変でしたが、オンライン環境は整っていたため、各校舎で撮ることができました。

授業に関しては、生徒が視聴したかどうか、ログを見れば確認できるようになっていきます。

やはり対面とは勝手が違います。限界があることを前提に、できることをしようと決めて取り組みました。解除後は対面に戻しています。

豊川 授業自体はウィングネットを使用し、質問をズームで受け付けるなど、ソフトを使い分けています。

子供は外に出たくても出られない状況でしたので、健康を損なう可能性があるかと危惧していました。食事をしっかりと摂れているかと、何時に寝たのかなど、ズームの面談では勉強以外の指導も多かったですね。

阿部 1カ月丸々オンライン指導をおこないました。解除後も、個別、そろばん、クラス指導と、一定数オンライン希望者がいるので、今も継続しています。解除直後は2割程度、今は1割未満です。オンラインは一括で対応しようと思いましたが、色々な意見もあり、各教室単位でおこなっています。

——緊急事態宣言解除後に教室を再開してから、運営方法で何か工夫をされていますか。

浦川 東京は陽性が多い場所もありましたので、現場幹部、私で日々リアルタイムに情報共有し、状況をいち早く把握できるよう意識しています。直近でも、従業員がPCR検査を受ける事になったので、万が一の事を考え保護者に連絡し2日間休校にしましたが、結果が陰性とわかり、すぐに再開しました。あとはオンラインも併用しています。

清水 線香の煙がどっちに流れるか確認して換気対策をしたり、スタッフ同士の接触を減らしたり、机の間隔を広げるなど、全面的に見直しました。しかしながら、第3波ではかなり影響を受けています。また、中学の入試直前は感染防止のためリモートに切り替えたほか、高校入試でもそうしようと段取りをしている最中です。

また我々もレベルアップ

リアルに勝るものはなしを痛感

——コロナ禍となり、保護者とのコミュニケーションに変化はありますか。

阿部 情熱はコロナ禍以前にメールからラインに移行するなどはしましたが、特に変わっていません。

豊川 創英ゼミナールとしては電話の回数を増やしたほか、保護者説明会はウェブで実施しました。はじめは録画したものを配信したのですが、参加率が悪かったですね。その後、オンラインライブに切り替えたものの、やはりリアルには及びませんでした。

また我々もレベルアップ

したので、社内へのメッセージ配信をオンラインでするようになっています。

浦川 いろいろな皆さんのお話を伺って、工夫されているんだなと感じ、私たちもいろいろ対応しないと刺激を受けました。また、今年こそは合格祝賀会を全体でやりたいという声が出ていますので、何か策を考えたいと思います。

清水 確かに出陣式とか、講習前の決起大会とか、生徒向けのイベントがしにくかったですよね。工夫してもリアルとは同じようにはならず、まだ試行錯誤中です。去年は合格祝賀会を中止しましたが、今年は何らかのカタチで集まればと考えているところです。

保護者とのコミュニケーション

シヨンに関しては、収録の間に電話をかけるなど、休校中は電話対応を多くしました。実際、通信費が2か月ほど高くなっています。また保護者向け説明会はリアルとオンラインの選択式にして、定員を減らしておこないました。

——コロナ禍で成績を向上させるために、取り組んでおられることをお聞かせください。

浦川 中学生が多いので、定期テストで結果を出してもらえよう力を入れていきます。学校が再開するといいていけないなど、例年以上にニーズが多かったですね。1学期がなくなってしまうと、参加者が多く、盛り上がりませんでした。

と、参加者が多く、盛り上がりませんでした。

清水 学校のペースは一旦考えず、カリキュラムの組み替えをしました。受験生に対しては、秋以降にオンラインでの取り組みを強化しています。

豊川 休校中は家で何もしていない子が多かったです。塾に通う価値を改めてわかりやすく提供できたのではないかと思います。

阿部 大分の場合は入試範囲に変更はないと早めに発表してくれたので体制を変えられることはありませんでしたが、2学期のテスト対策は学校により進度差が大きく、大変でした。

高校入試、そしてギガスクール構想

——冬期講習の募集で工夫したことがあれば教えてください。

浦川 受験生からの不安の声が多かったので、受験対策メニューを増やしたほか、受験生以外にも補習講座を増やしました。

また、4月、5月に業務が停止したタイミングで第3波も見越し、新聞折込やウェブの集客を見直しました。反響を見ながらテコ入れをするといいいカタチにまとめたので、そこからは変えています。結果、例年より微増で落ち着いています。

清水 冬期ではあまり変えていませんが、夏期講習は、休校になった時点でカリキュラムを組み替えるなど、コマ数を確保するのに気を遣いました。シフトをずらして職員の休みも確保できています。

豊川 ウェブ広告を中心に予算を投じました。結果、12月以降は生徒さんが戻ってきてきています。

阿部 ウェブが中心なのは例年と変えていませんが、今年はいくく3月の割合を高めています。ポータルサイトとリスティングに出稿しています。またSNSも強化していきました。

——高校入試の出題傾向に何か変化はありますか。

浦川 アトムは学力が中間層以下の子が多いので、入試に関しては変化がなく、私たちの対応も例年通りでした。

清水 誉田進学塾のある千葉県は今まで、前期後期で2回入試があったのですが、今年から1回だけになりました。それがどう影響するかは、まだわかりません。いろいろな数字を見る限りでは、千葉市など東京に近い都市部と郡部では、大きく異なる入試状況になるのではという印象です。

す。

公立でも難関校は塾なしで受かるのは難しいのではないのでしょうか。千葉では、難関校は倍率が高いだけでなく、学力試験の得点比率も非常に高いので、内申点だけ取らせるスタイルの塾だと勝負できないと思います。

豊川 神奈川は千葉より数年前に前期後期は終わって、今は1回のみ入試となっています。また、コロナ禍で私学志願者が減るかと思つたのですが、ほぼ例年通りです。

阿部 大分・宮崎では公立中間一貫高の人気があり、私立中学の勉強してきた生徒がより合格しやすくなつていると思います。

浦川 うちも同じです。この春に第4波が来て休校になったとしても、学校の対応は前回の休校時と変わらないように思います。教科書の代わりにタブレットがあれば別だと思えます。

——春からギガスクール構想が始まりますが準備していることはありますか。

豊川 特に何もしていません。様子を見ています。

浦川

千葉市は先月、ICT教育のための予算として数億円を計上しました。技術者を確保するらしいのですが、自治体によって対応が異なるので戸惑っています。一番生徒が多い千葉市

と市原市はタブレットの配布が終わり、アカウントも作成。生徒がタブレットを毎日持ち帰るなら話は別ですが、それもはつきりわからないので、まだ動けない状態です。あとはアプリやウェブへのアクセスがフリーにならないと、民間が乗っかりにくいですね。少しずつ研究を始めているものの、まだ具体的に組み立ててはいません。また去年の休校で感じたのは、小学生にはデバイス

の壁が結構あるということです。親の携帯やパソコンを使用することが多いので、親が家にいないとオンライン授業に参加できないんです。

阿部 私の母校は1人に1

台タブレットを配り、成績表も宿題も持ち帰っておこなっています。自治体と学校が一体となって取り組んでいるので、すごいなと思つて見えています。そういう状況なので映像

——保護者のニーズはコロナ禍の前と後で変わったのでしょうか。

豊川 コロナを機にオンラインの浸透が速くなつたと思います。塾に対するニーズを明確には感じられていないです。

浦川 豊川さんが言うように、リモートには我々が

思っている以上に慣れていて、いただいたと思います。

また、私自身、最初はコロナに対して神経質で、6月に保護者の反応を社内確認したことがあります。その際は「以前と変わらなしい」とのことでした。再び体校になるとわかりませんが、現状では変わらないのではないかと思っております。

阿部 特に二ノズの変更はありませんが、勉強会などをウェブでおこなうと参加率が高いですし、喜ばれます。ただ、志望校は明らかに変わりました。年々、地元志向にシフトしていましたが、首都圏志望が今年は特に少なくなっています。

清水 みなさんの意見を聞

いてなるほどと思いました。直接の二ノズは捉えられていません。

また、今阿部さんが言われた受験の話は共感できました。うちは東京が近いのでそこまで変わらないものの、データを見る限りでは地元志向が強まっていると感じます。受験を目前にしていきなり志望校が変わることは無いと思いますが、

来年、再来年以降で影響が出るのかもしれないですね。

——大学入学共通テストに向けて小中学生から何か対策をされますか。

浦川 アトムは個別なので、全体的に共通テストの受験が少なく、正直対応できていません。推薦を考える子が中3にいたので、

そっちに力を入れているところですよ。また、これまで高校受験が多かったので、今年からは大学受験が増えてきています。

阿部 情熱も個別中心なので、具体的な対策はしていません。塾としては小さい頃からいろいろな興味を持つてもらおうにしているので、探究なども予定はしていませんね。今までの学習を続けていけば、共通テストに通じる力が養われると考えていて、そこに共感する保護者は増えていきます。

豊川 教科書レベルができれば対応できると思っております。中1の英語は論点になつていますが、実際のテストを見ていないので何と

も言えません。ただ、オンライン英会話を採り入れるなど、やり方を変える必要はあるかなと思っております。でもやはり、基本は教科書対応ではないでしょうか。

清水 豊川さんの教科書自体が変わることに注目すべきというのは、なるほどと思います。ただ、小中学生やその親はまだピンと来ていないようなので、そこに訴えても動きは変わらないかと思っております。

本日は、小学校から中学校への英語の接続は課題でしょう。習う単語が多過ぎて書けないというし寄せが、どこかで来るかもしれませんね。

でも、親御さんの入試改革への感度が低く、始まっ

て混乱が起きてからじゃないと、その対策の必要性がわかってもらえないような気がします。

それから、共通テストも何年かするとある程度パターン化されると思います。ですが、その対策をして点数を取らせるといのは、理念に反する気がしますね。どう点を取らせるかより、生徒を伸ばす取り組みを官民でおこなうきっかけになることを願っています。

——本日はご参加いただきありがとうございます。また貴重なご意見をありがとうございました。ありがとうございます。